



イスラーム市場の魅力と ビジネスの醍醐味

2018年1月22日
中東協力センター「中東講座」

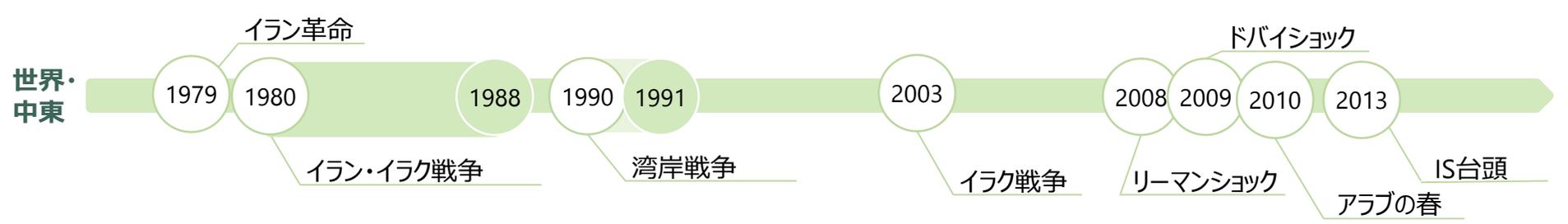
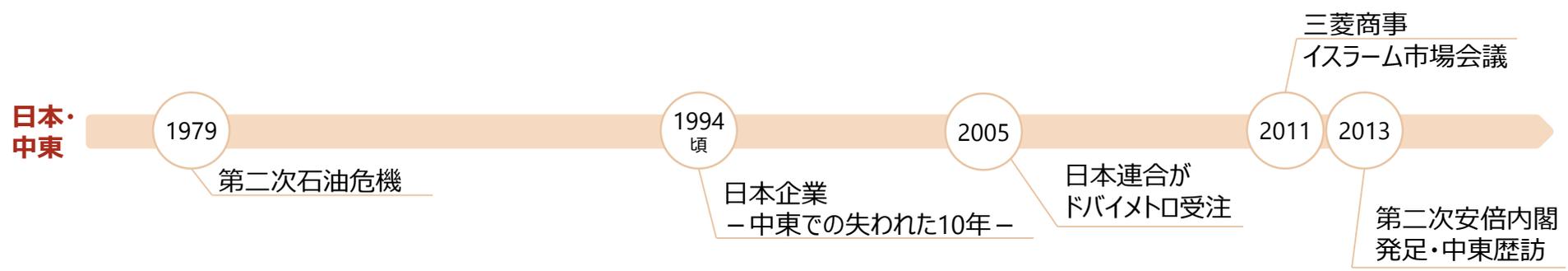
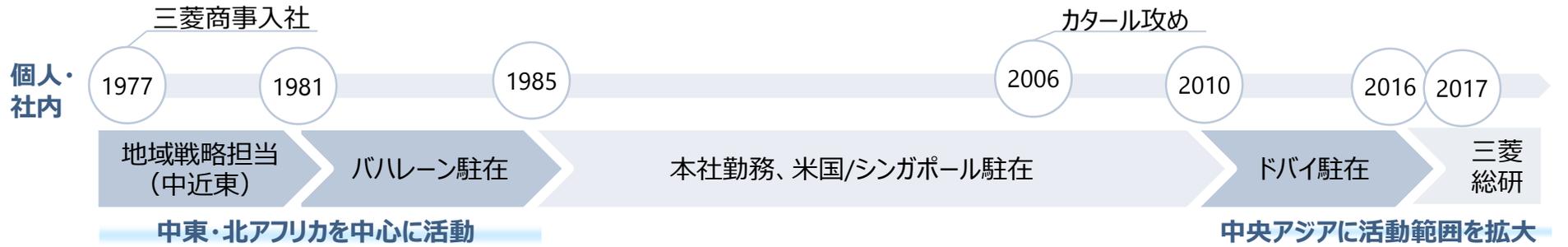
MRI 株式会社三菱総合研究所

代表取締役副社長

(元三菱商事株式会社 常務執行役員 中東・中央アジア統括)

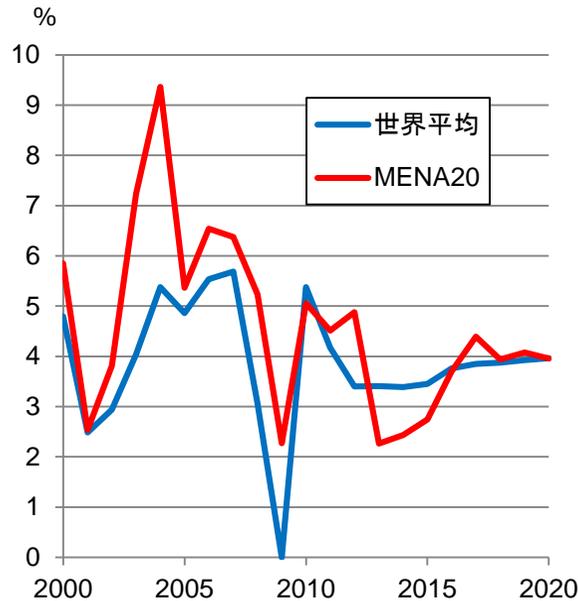
吉川 恵章

1. はじめに – 中東とのかかわり –



2. 中東地域の位置づけ・重要性（ASEAN10との比較）

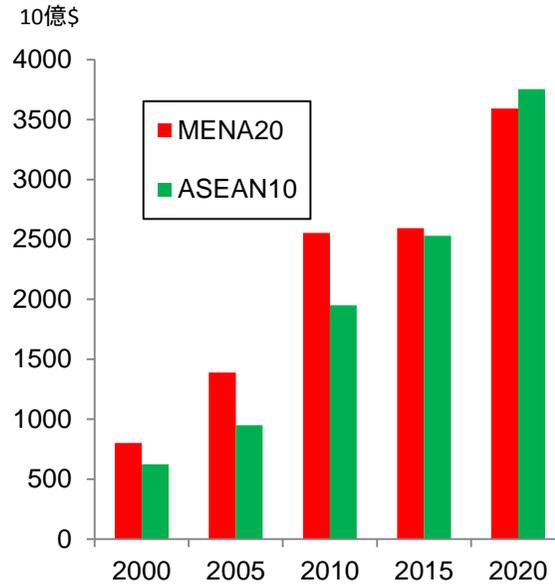
成長率



出所：IMF, World Economic Outlook Database, April 2015

- 2015年の成長率は2.7%
- 近年は低迷傾向にあるものの、2016年は3.7%、2020年は4.0%と上向くことを予測

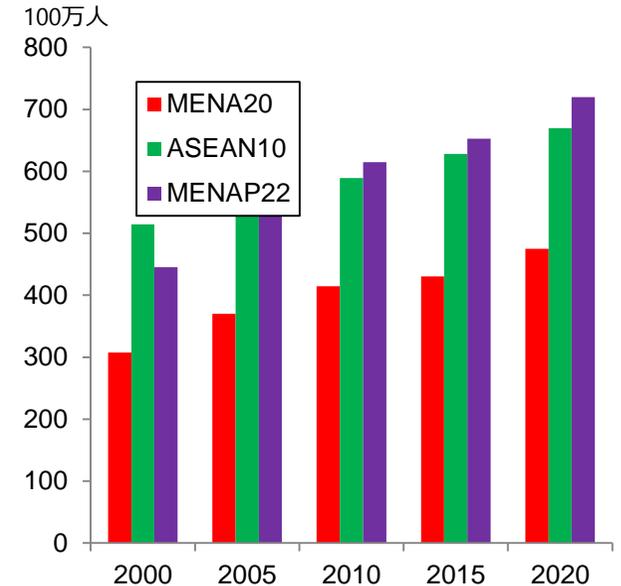
名目GDP



出所：IMF, World Economic Outlook Database, April 2015

- 2015年の名目GDPは2.6兆ドル
- ASEAN10（2.5兆ドル）とほぼ同規模
- 2020年の名目GDP予測は3.6兆ドル今後5年で約4割増の成長を予測

人口



出所：IMF, World Economic Outlook Database, April 2015

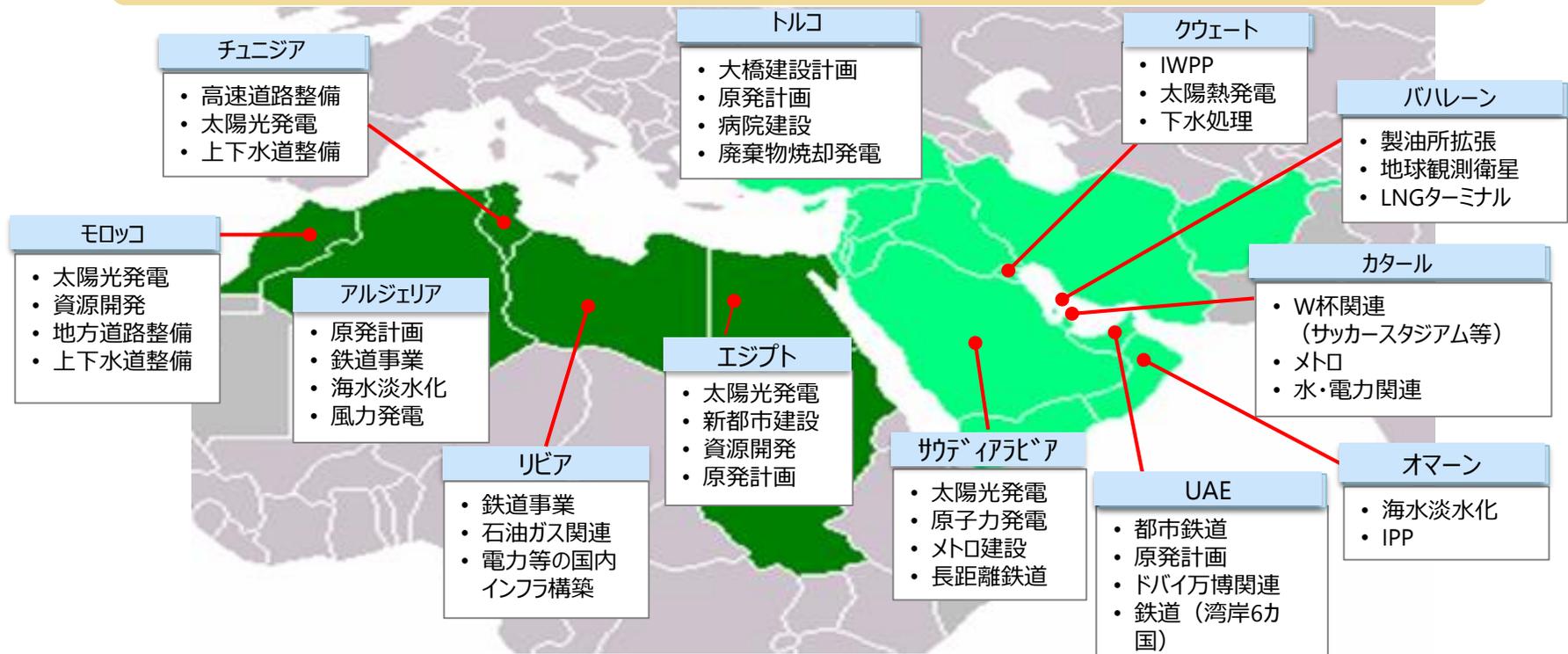
- 2015年の全体人口は4.3億人 ASEAN10の7割程度
- アフガニスタン、パキстанを含めた MENAP22はASEAN10を超えた規模

IMFによるMENA20の定義：アルジェリア、バーレーン、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、カタール、サウディアラビア、スーダン、シリア、チュニジア、UAE、イエメン

3-1. インフラ市場・中東の魅力

- 人口増加と経済成長に伴うハード・ソフト両面における経済・社会基盤整備（電力・水・交通等）が喫緊の課題
- 治安・内政の安定化を図る上でも社会インフラ整備が必須
- 非石油部門の産業育成による経済構造の多角化・高度化の必要性
- “トルコから見た中央アジア”、“ドバイから見たアフリカ”という市場の捉え方が重要

中東地域のインフラ需要は2020年までに約430兆円



3-2. インフラ市場・中東の魅力 – 商社の役割 –

■ 商社の強み

- ① 制度金融・ファイナンス組成力
- ② 高い技術力を有するメーカーとのパートナーリング
- ③ グローバルな拠点・情報ネットワーク
- ④ トップ外交における官民連携

■ 商社の役割



3-3. インフラ市場・中東の魅力 –プロジェクト遂行上の課題–

■ 日本企業の競争力向上

<インフラ全般>

- 中国・韓国との価格面・技術面での競合に加え、参入者増加による競争激化

<電力>

- 日本勢はガスタービンと石炭火力発電機器に強みも欧米と競合
送配電は海外展開の歴史が浅く事業規模で劣後

<鉄道>

- O&M事業を取り込む為のコンソーシアム構築（鉄道・空港事業者の海外進出後押し）
- 日本メーカーの供給キャパシティの制約

■ 制度金融の拡充

- 量的拡充：初期投資の規模、投資資金回収が長期化。現行の資金供給能力では対応困難な巨額案件が多数存在
- 新たなリスクへの対応：サブソブリン（地方政府 / 国営公社）リスクやマーケットリスク（ライダーシップリスク・完工遅延リスク）を取れる中国への対抗策
- 更なる迅速化：従来の円借款の優位性（低金利、長期間）が低下する中での、ファイナンス供与の更なる迅速化

■ Localizationへの対応

- 一定比率以上の当該国人材の雇用、当該国企業への下請けの要求（サウディアラビア、クウェート、オマーン等）
- 外国企業進出における障害（会社登記・許認可、スポンサー制度、ビザ発給等）

3-4. インフラ市場・中東の魅力 – 政府・政府機関への期待 –

課題

日本企業の
競争力向上

制度金融の拡充

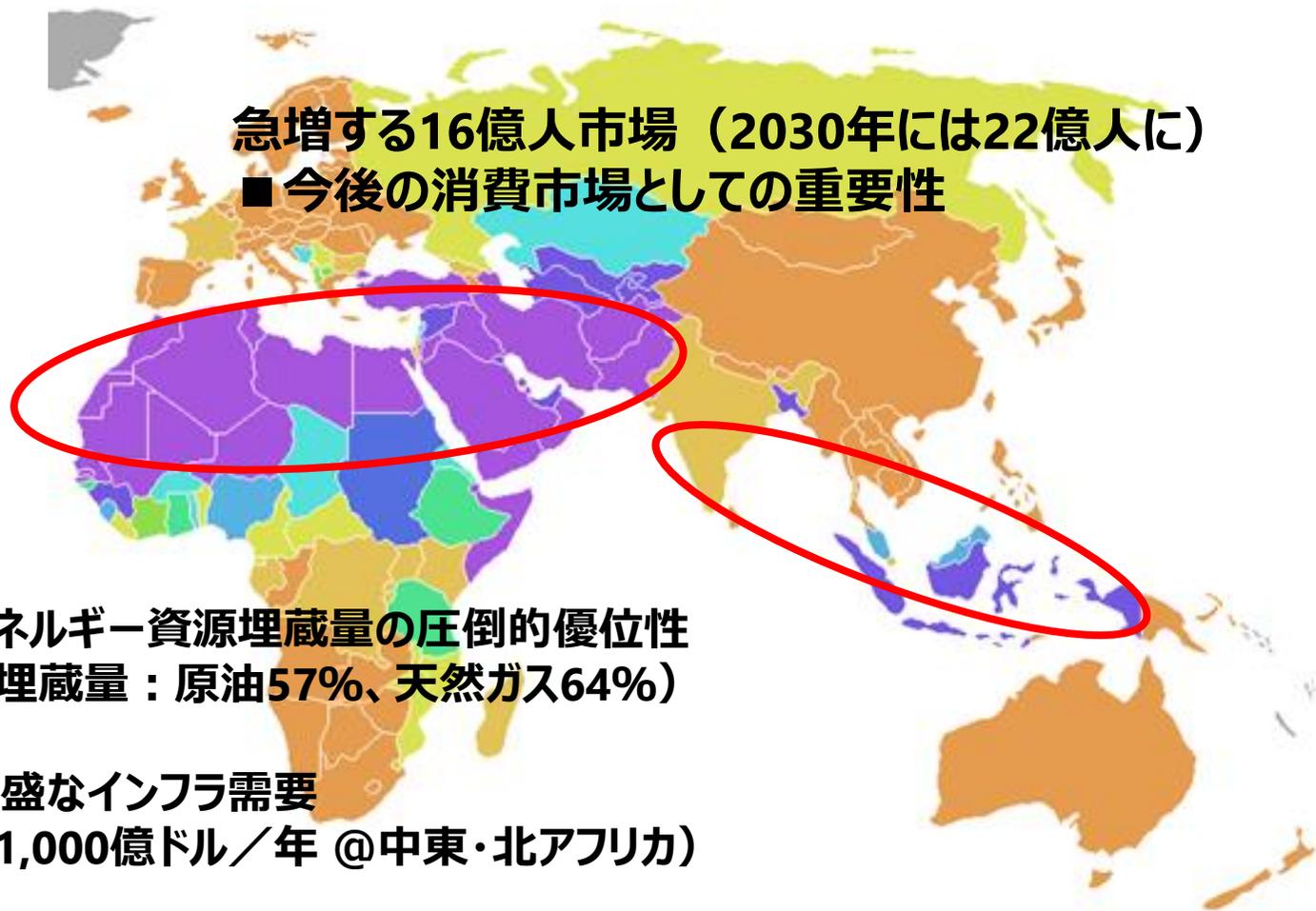
Localization
への対応

政府・政府関係機関への期待

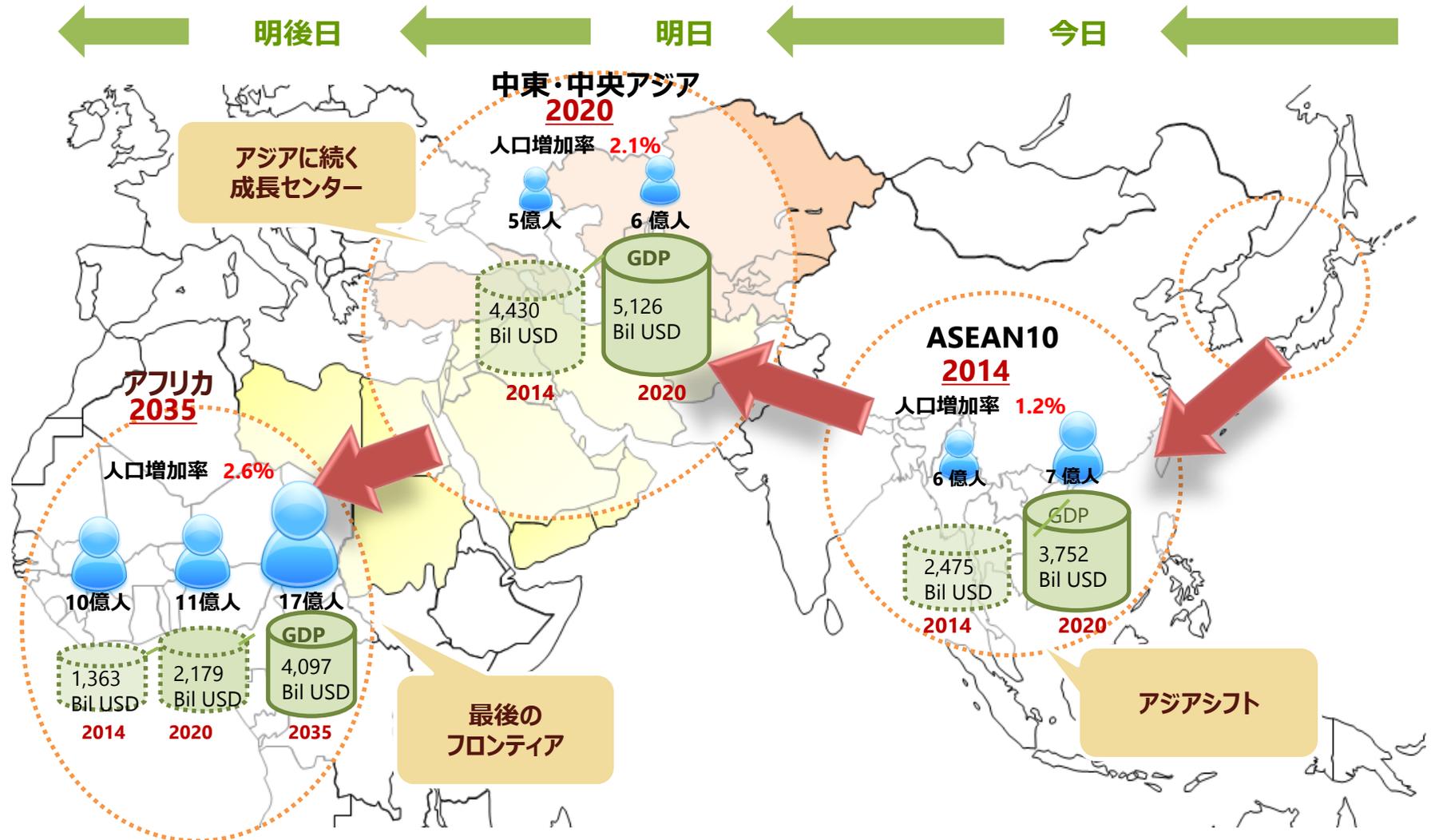
- **官民一体でのトップセールスのさらなる強化**
「パッケージとしてのインフラ」および「質の高いインフラ」を
アピールしたトップセールスのさらなる推進と官民連携の強化
- **公的金融機関（JICA・JBIC・NEXI）の機能強化**
実情を踏まえた柔軟な対応、手続きの迅速化と人員強化、
ODAの戦略的活用
- **ビジネス環境整備**
規制緩和の働きかけおよび投資協定等の締結推進
- **地域の平和と安定の確保**
テロや非常事態時の邦人関係者の安全確保および地域安定への
働きかけ

4-1. 中東・イスラーム市場のポテンシャル

- 中東を中心とするイスラーム圏には、共通の宗教・文化・言語を持つなど、国・地域を跨いだ巨大市場が存在



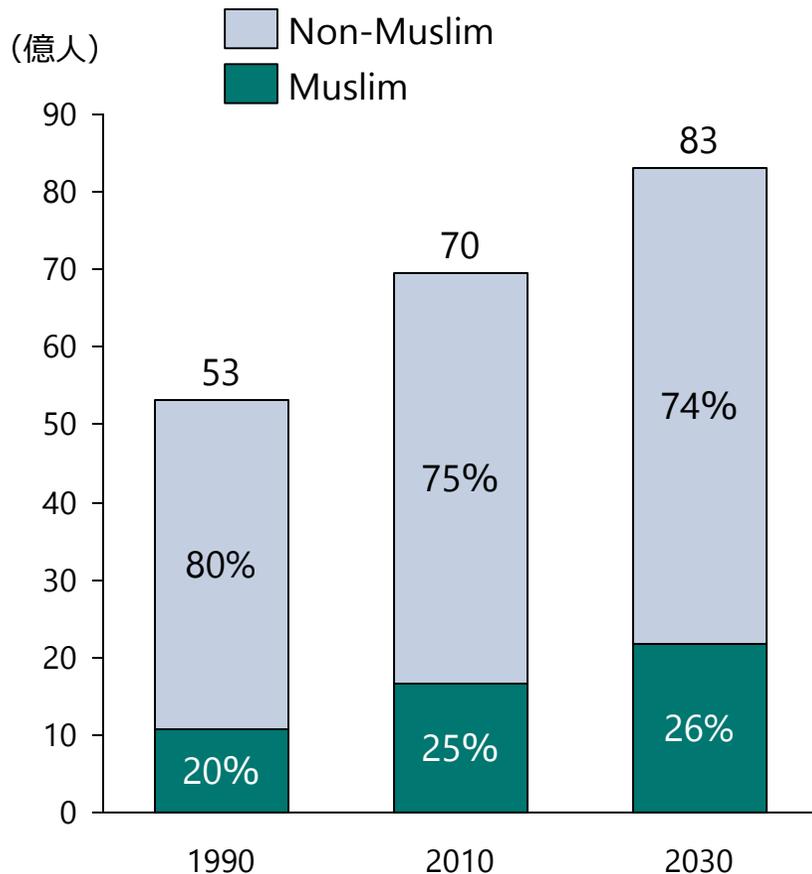
4-2. 中東・イスラーム市場のポテンシャル – 市場の展望 –



4-3. 中東・イスラーム市場のポテンシャル – アップサイド –

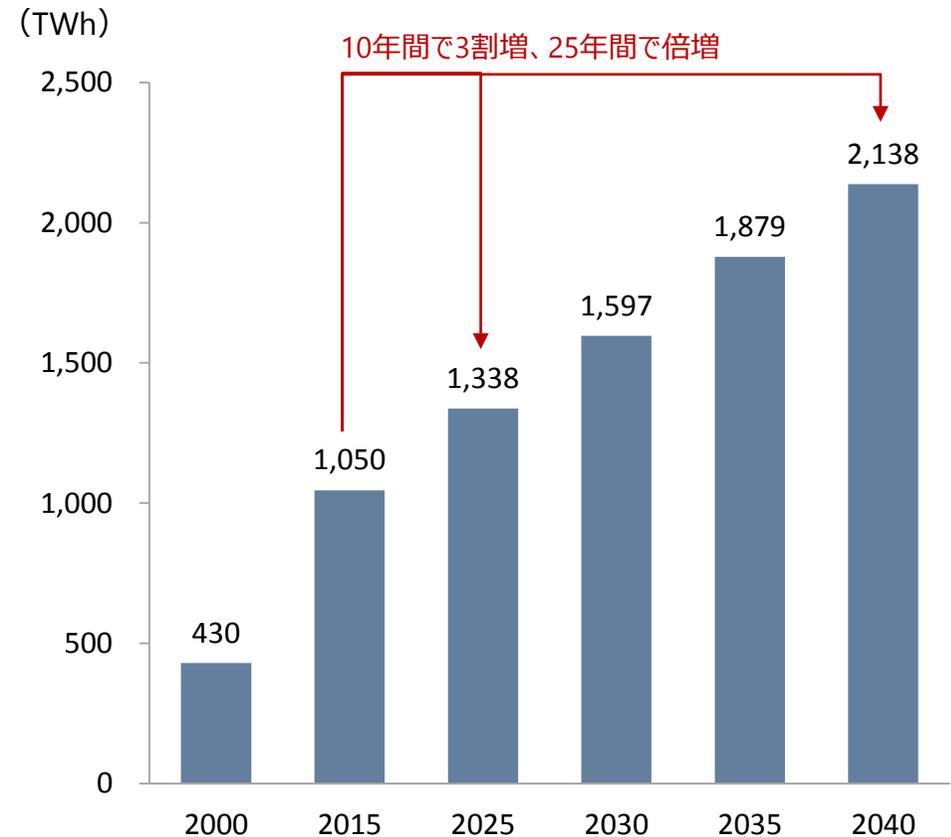
- 人口増加に伴い、油価低迷の状況下においても、インフラ需要の拡大は基本的に不変の流れ。但し、各国予算の影響を受け、プロジェクト遅延・中止を覚悟。

全世界におけるムスリム人口



出所：“The Future of the Global Muslim Population”, 2011

中東地域の発電量見通し



出所：World Energy Outlook 2017

4-4. 中東・イスラーム市場のポテンシャル – ダウンサイド –

地政学リスクの高まり

- 米国の中東不関与がもたらす真空状態 → 露・土・イラン・サウディ・イスラエル動静
- IS掃討後のイラク・シリアの国家分裂危機と、ISのテロ拡散リスク
- サウディアラビア改革の行方と、イラン・サウディアラビア対立の影響
- イスラーム排除の動き（米国入国ビザ問題、難民問題、等）

▶ 地政学リスクに対するインテリジェンス強化

油価低迷の長期化

- 緊縮財政、補助金削減・増税による支払遅延リスク
- GCC諸国は総じて財政悪化
（2016年のサウディアラビア歳入は15年予算比▲28%）
- イスラーム金融の成長鈍化
（2015年1～9月のスクーク発行総額は、前年同期比▲39%）

▶ 油価の影響を受けにくいビジネスモデルの構築

コンプライアンス リスクの高まり

- 長期政権の国における、各国トップとの関係構築上、透明性の高いコミュニケーションが必要
- 個社単独で取組みにくい国・地域では、地場有力パートナーとの協業が必須

▶ 個社単独では取組みにくい地域でのパートナー戦略

5. おわりに – 万華鏡の地域 –

■ イスラーム市場の魅力

- ・ インフラ市場としてのポテンシャル
- ・ エネルギー資源のポテンシャル
- ・ 消費市場としてのポテンシャル
- ・ 過去： 歴史と文化の宝庫 → 未来： 世界三大潮流の一角

■ ビジネスの醍醐味

- ・ 若手にとってのビジネスの道場（ハードシップ、リスク、交渉スキル）
- ・ 地政学のビジネススクール
- ・ 地域戦略の実験場
- ・ 官民連携の現場